【室内活動】

活動名	光の芸術				
概要	○多数のロウソクを配置し，光の芸術作品をつくり，観賞する。				
ねらい	○仲間とともに協力してひとつの作品をつくり上げることのすばらしさを知る。 ○話し合いをしながら，表現を工夫する。 ○光の神秘さや火の大切さに気づく。				
関連教科等	道徳・総合				
指導形態	①自主活動で実施				
時　期	通年	時間帯	夜	対象	低学年～
場　所	第2ホール	人数	～70人程度	所要時間	1.5～2時間

準備物	施設で準備できるもの	団体・個人で準備するもの
	燭台（～600個），ロウソク，点火用ライター，うちわ，ロウ除去用へら	なし

進め方・展開例

	内容	留意点
活動前	○事務室で打ち合わせを行う。 ・物品の受け渡し（準備物参照）	○用具の取り扱い，安全面について確認する。
活動の説明	○作成にあたっての留意点について ○安全面での注意事項（留意点参照） ○竹の燭台は，割れやすいので丁寧に扱う。	○観賞する場所と竹の燭台設置の方向を知らせておく。 ○やけどに注意する。点火後は，燭台を倒さないように静かに歩く。 ○火を消す時は，吹き消すとロウが目に入ることがあるので，うちわを使って消す。 ○消火後も融けたロウソクが固まるまで3分間はそのまま待つ。その後片付ける。
展開	①準備をする。 ・竹の燭台，ロウソクなどを準備する。 ②＜大人数の場合＞ ・班ごとで作成。 ↓ ・全員で作成。 ②＜少人数の場合＞ ・初めから全員で作成。 ③それぞれの作品を観賞する。 ④光（炎）の話などを聴く。 ⑤作品の紹介をし，作品の意図，見て欲しいところ，工夫したところなど発表する。 ⑥火を消す（必ずうちわを使う） ⑦片付ける（ロウが固まる3分間を利用して，片付の説明を行う）	○設計図は予め作成していた方がよいが，なくてもできる。 ○作品づくりは，共通のテーマがある方が題材を見つけやすい。 ○役割分担としては，次のようなことが考えられる。 ・観賞場所から全体を見る。 ・燭台を設置する。 ○光（炎）の話などを入れるとより一層心の中に残る活動になると考えられる。 ○ロウソクは，次の団体も継続して使用する。ロウが減ってきたら，新しいものと交換する。
まとめ	○鑑賞後の余韻を大切にしたい。 ○協力して乗り越えてできたことや友達の光る活動・態度など感想を自由に話し合う。 ○火の始末をきちんと行う。	
評価	○仲間とともに力を合わせて活動することができたか。 ○表現を工夫することができたか。 ○光（炎）のすばらしさを感じることができたか。	
発展	○星空観察と組み合わせ，地上の星座を作ることができる。	